

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		あお・そら（保育所等訪問支援）		公表日 令和7年2月25日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
環境・運営・体制	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3		事業所内に作業療法士がいるので、身体や作業の事に関しては相談して適切な対応ができている。 教具教材の種類が少ないので増やしていく。	当日のカンファレンスで話して、訪問先に教材の作成を準備してもらった流れが大半だったので、事前にお伺いできた提案には、こちらで作成したものを持参して試してもらうようにする。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		配置は適切である。 管理者を含め全員が保育士なので、法人間の他業種と連携を取って支援に生かすようにしている。	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		定期的に話し合いを持ち、情報の共有ができている。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		今回が初めての評価となる。率直なご意見を聞かせていただき、業務改善につなげていく。	今年度の評価を取った以後に利用を開始した方が多くいらっしゃいました。来年度はより多くの保護者様のご意見を伺えたらと思う。
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		訪問後に、必ず職員に報告をして内容の共有を図っている。 意見等、自由に言い合える雰囲気がある。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	外部評価は行ってない。	客観的な意見は大切だと考えている。 第三者評価を検討して行く。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		研修の機会があり、積極的に参加している。 現在は、オンデマンドでの研修もあり、時間にとらわれず受講でき助かっている。	
適切な支援の提供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3		同法人の児発や放デイを利用しているため普段から保護者様や子どもとの信頼関係を築けているので相談しやすいと思う。 事前のアセスメントや事業所内での検討会議を行って計画が作成されている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		配置職員全員で会議を行っている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3		訪問時に訪問先のご意向等伺ってできる限り盛り込んでいる。 月に1.2回の訪問なので、相手方との信頼関係が築きにくいと感じることがある。	今後、更なる訪問先との信頼関係作りを力を入れて行きたいと考えている。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		定期的な会議が行われている。	
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		3	確認できていないので、取り入れていく。	標準化されたツールを用いたアセスメントができるよう、資料等整えて行く。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3		設定されていると思うが確認の機会を持ちたい。	定期的なガイドラインの確認を職員間で行っていく。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		定期的な会議が行われている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		毎回1人での訪問なので、事前に内容等の確認を個人ですて行くようにしている。 前回は行った職員に確認等とって訪問に出るようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		当日、もしくは翌日に話し合いの時間を設けている。また、報告書にて確認も行っている。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3		訪問先とのコミュニケーションを大切にしている。	

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3		必ずノートに記録を取り、報告書を作成している。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		行っている。 行っているが、他の業務も多忙なため、半年に1回のみ。	長期的な支援目標が多いが、訪問と共に支援計画の内容を見直し確認して行きたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		管理者兼児児管が参画している。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		整えている。 連絡を取ることもある。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		可能な限り移行会議を相談支援専門員に開いてもらい、情報を共有している。 書面での情報提供も行っている。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3		研修に積極的に参加している。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	3		参加していない。 大分市の自立支援協議会は、自由に参加できる場所ではない。協議会の内容は確認できるので、適宜確認する。	参加の機会があれば、積極的に参加する。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3		同法人の児発や放デイを使っているため、日々の送迎や連絡帳等でのやり取りができ、確認が取りやすい。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		行っていない。	事業所での家族支援プログラムや研修会などは今年度行われていない。外部の研修等保護者様が参加できる案内が来た際は、ホームページやLINEなどで情報を共有して行きたい。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		運営規程は契約時のみ説明している。 利用負担に関しては、契約の際と計画の見直しの際に（年1回）説明している。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3		初回の訪問時に説明している。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		面談を行って確認している。子どもの意向は読み取りにくい事もあるので、保護者の意見を優先することもある。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3		必ず説明を行い、同意を得ている。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		イベント等の開催はなかった。 機会があれば参加を希望する声も上がっているので企画した方が良いのではないかと。	保護者同士の交流ができるイベントを企画運営していく。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		主に管理者が対応に当たっている。 迅速な対応ができていと思う。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		通信を作成しているが、保育所等訪問支援の内容に関する発信はしていなかった。	定期的に保育所等訪問の事業内容についてあおぞらだよりやホームページ等で発信していく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報は、法人施設外には持ち出さない。 訪問時の記録ノートは、手放さず厳重に管理している。	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		連絡帳、LINE、電話、対面など幅広く意思疎通できるツールがある。 支援後は、報告書を配布して情報を伝達している。	
訪問先	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3		電話での相談も適宜受け付けている。 時間を問わないメールでの相談を受け付けても良いのではないかと。	個人情報の保護や管理の観点から、メールの活用は慎重に検討する。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3		放課後にカンファレンスをしたいのご希望があった際は、訪問後一旦施設に戻り、出直してカンファレンスを行うこともあった。	今後も訪問先の事情に合わせて柔軟に対応する。

施設への説明等	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3		口頭だけでなく、報告書に内容をまとめてお渡ししている。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		人間関係の部分で相手がいるが、個人が特定できないように記載説明している。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3		返答に悩んだ時には、一旦施設に持ち帰って管理者を含めた皆で検討した後、内容を返すようにしている。	今後も丁寧な対応を心掛ける。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		玄関先に閲覧できるように置いてある。訓練も様々な想定で行っている。訪問先で訓練があった際は、参加している。	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		事業所の安全計画はあり、玄関の手に取りやすい場所に置いている。今後、ホームページにも掲載予定。保育所等訪問は、幼稚園や保育園や小学校等へ訪問して支援を行いますので、その場合は訪問先の指示に従う。	常に新しい情報の収集を行って安全を確保していく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		適宜行って、再発防止に努めている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		今年度は2回研修を受けた。報告書も作成し、振り返りや共有も行った。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		その可能性や必要がある子には記載している。	